



紅葉が北海道ではすでに平野部近くまで降りてきたよつだ。南に位置する松山^{ひやま}地方。どこよりも鮮やかな色付きを目にした覚えがある。そこには民謡「江差追分」。元をたどれば日本海沿いに信州の馬子唄へと行き着くらしい。

土古

四季彩

高原。新そば目当てで訪ねた際には騎乗も体験してみたい。出合いと触れ合い。さらに走りを見て楽しむのなら名古屋競馬場(港区泰

いざ名古屋競馬場へ

明町)に足を運ぼう。開催は月に十日間ほどで年間では百日を超す。重賞レースが十月は目白押し。その先、年内は東海菊花賞

や名古屋グランプリが控える。スタンドには熱心なファン。皆それぞれ「推理とロマン」に浸る。名古屋競馬場は戦後間もなく一九四九年に産声を上げた。地方の地味な存在。バブル経済崩壊後は赤字基調が続く中で廃止へと傾いた。瀬戸際に立った二〇一三年度。インターネットによる馬券販売の導入が効を奏して難を逃れた。「土古競馬場」が旧町名にちなんだ呼称で正式名よりなじみ深い。それもあと一年余。調教施設が備わる愛知県弥富市に移転する。惜別の思い。ひづめやむちの音、駆け抜ける馬群の壮観など、たっぷり記憶にとどめておこう。(木)

絵・高藤 暁子